

生コン・作動油の飛散で通行車両に被害

- ・配管、油圧ホースの点検不備により、生コン及び作動油が飛散し、第三者車両に被害を与える事故が発生しました。
- ・2件とも走行中の車両であり、飛散物による視界不良のため大事故につながる恐れがありました。
- ・日常点検において不良箇所の整備を確実にし、事故発生を未然に防いでください。

生コンが飛散

<事故概要>

- ・生コンを圧送中に配管が破損し、隣接道路を走行中の第三者車両に生コンが飛散した。



<事故原因>

- ・配管点検時に配管の劣化を見逃していた。

<事故防止対策案>

- ・生コンの圧送前に配管の点検・整備を確実にし、施工を行う。



作動油が飛散

<事故概要>

- ・杭打機の油圧ホースが破裂し、作動油が隣接道路を走行中の第三者車両に飛散した。



<事故原因>

- ・油圧ホースの劣化の確認を行っていなかった。

<事故防止対策案>

- ・油圧ホースを含め、機材全体の点検・整備を行う。



地下埋設物件損傷事故が増加

- ・地下埋設物件の損傷事故は、平成22年度請負工事等事故防止重点対策項目となっています。12月末現在で10件発生しており、12月だけで3件発生しています（速報値）。
- ・今一度、施工計画を見直し、台帳確認・試掘調査・マーキング等を怠っていないか、思いこみによって誤った判断をしていないかなどを十分に確認し、施工を行ってください。

<事例1>

- ・道路照明柱基礎の撤去作業中に、水道管を損傷した。

<事故原因>

- ・水道管の敷設高を実際より深いものと思いこみ施工を行った。



<事例2>

- ・水路壁の撤去作業中に、水道管を損傷した。

<事故原因>

- ・水道管の敷設経路を、実際とは異なる経路と誤解し、十分な試掘を行わないまま撤去作業を行った。



<事例3>

- ・バックホウでセメント改良を行っていたところ、情報BOX 移設管を損傷した。

<事故原因>

- ・元請け業者の指示不足により、セメント改良幅を予定より広く掘削したため、移設管を損傷した。



年度別の推移は以下のとおりです

- ・図-1は、平成17～22年度の地下埋設物件損傷事故の発生件数をグラフ化したものです。（平成22年度は12月末時点の速報値）
- ・平成17年度は年間37件、平成19年度は33件と多発していますが、概ね減少傾向を示しています。
- ・平成22年度は、12月末現在で既に前年度と同件数（10件）発生しています。

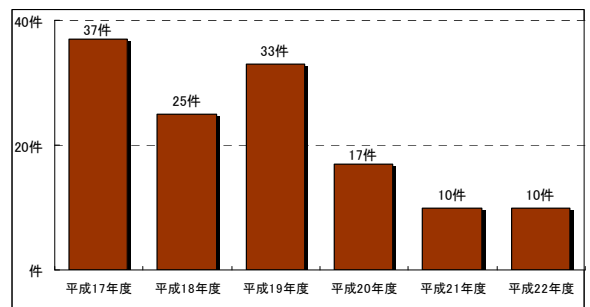


図-1 地下埋設物件損傷事故 発生件数

足場からの墜落事故が連続して発生

<事故概要>

- ・足場の組み立て作業（最上段の手すり先行部材の取り付け）を行っていた作業員が足場から約4.8m下に墜落した。

<被害の程度>

- ・頸椎脱臼骨折

<事故原因>

- ・安全帯を着用していたが、作業を行う際にフックを外していた。



現場状況写真

<事故概要>

- ・作業員が交差筋交いより外の単管に乗って、作業を行っていたところ、足を滑らせて約2.7m下に落下した。

<被害の程度>

- ・肋骨骨折、血気胸、肩鎖関節脱臼

<事故原因>

- ・安全帯を着用していたが、単管に乗って作業を行う際にフックを外していた。

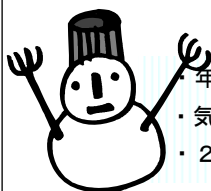


現場状況写真

<事故防止対策案>

- ・安全帯は正しく着用する。
- ・フックを外しての作業は行わない。

冬期の作業には万全の注意を



年末から年始にかけて日本海側の各地では大雪が降り、それに伴って事故も発生しています。

- ・気象庁の発表では、1月末をピークに厳しい寒さは和らぎ、2月は平年並みの気温となる見込みです。
- ・2月以降も日本海側では、降雪・積雪に注意してください。



降雪・積雪による事故事例

雪塊でプルボックスを破損

<事故概要>

- ・ホイールローダーによる除雪時に、雪塊でプルボックスを押し、断線した。

<事故原因>

- ・積雪により、プルボックスが確認できなかった。

<事故防止対策案>

- ・除雪作業時は、周囲の構造物に注意する。



現場状況写真

現場除雪時にバックホウが転落

<事故概要>

- ・堤防天端を除雪中、バックホウが高水敷に転落した。

<事故原因>

- ・作業中、キャタピラが横滑りした。

<事故防止対策案>

- ・積雪時の重機の運転については、慎重に行うようにする。



現場状況写真

第三者車両がスリップ(もらい事故)

<事故概要>

- ・第三者車両が現場ゲート及び既設フェンスを損傷させた。

<事故原因>

- ・路面の凍結により第三者車両が交差点を曲がりきれず、横滑りした。

<人身事故に至らないように>

- ・誘導員・作業員が巻き込まれないよう、ガードマンロボット等による規制を行う。



現場状況写真

- ・路面凍結によるスリップ、制動距離の延長、または降雪による視界不良等により、もらい事故の発生する可能性も高まります。遠くから現場が作業中と一般車両の運転者に分かるよう措置を施してください。

- ・除雪作業時は、構造物等との接触を避け、慎重な運転操作を心がける。構造物等は、事前に確認し、明示を行い、積雪時でも判明できるようにしておく。また、排雪時に構造物を損傷することがあるので、排雪場所も十分に検討してください。

- ・降雪時は、架空線が普段より見えにくくなるため、作業時の架空線接触・切断の危険は更に高まります。

降雪・積雪時の作業には事故発生の危険あり